

基礎理論研修 言語文化的に多様な背景を持つ子どもたちが共に過ごせる保育

- ◎園内研修の時間や優先して取り上げたい事柄等、各園の実情に合わせて進め方を工夫してください。
- ◎動画を全部見てから協議をしても結構ですし、途中で止めて参加者にワークシートに記入してもらい、協議の時間をもってから次に進めてもよいでしょう。
- ◎参加者の発言内容に即して気付きを引き出すように問いかけてください。その際、動画で学んだことと関連付けるような言葉を使うと、参加者の気付きが深まり、保育に反映しやすくなると思います。

本研修の概要と協議の進め方

さあ、やってみましょう！

研修全体の目的、基本的な考え方と、研修を実施する上でのポイントが書かれています。参加者と一緒に確認して始めてください。ファシリテーションのポイントを一緒に読んでみるとよいかもしれません。

1. なぜ多文化共生保育が必要なのか

外国人幼児等の受入れに関する日本の現状と、この研修の意義について説明しています。協議では、参加者のいる地域の状況について共通理解ができるとよいと思います。参加者の中に外国につながる方がいたら、その方に発言してもらおうなど付加的な質問を考えていきましょう。

2. 外国人幼児等を受け入れるとは

外国人幼児等を受け入れることの意味について、「当たり前」を捉え直す、「幼児教育の基本を見直す」、新たな保育実践を創造する、の三つの視点から考えます。外国人幼児等を受け入れることは、単に外国人幼児等への援助・指導方法を学ぶことではなく、自園の保育実践を見直し、新しい実践を園の保育者全員で創造する営みであることを伝えていきましょう。

3. 言葉を獲得するとは

文化的な背景が多様な外国人幼児等を受け入れるにあたって押さえておきたい「言葉の発達」について、「言葉の獲得の基盤」、「言葉は子どもの世界を広げる」、「言葉は「わたし」をつくる」、「言葉は文化の4点から見ていきます」。そもそも「言葉」とは何なのか、言葉の意義を捉え直し、言葉の獲得とは単に語彙を増やすことだけではないことを、改めて考えていきましょう。

4. 多文化環境で育つ子どもたち—園と家庭・地域で言葉を育むために—

ここでは、「次の概念について確認し、多文化環境、複数の言語環境を行き来して育つ幼児に対して、保育者が知っているべき概念や目指すべき専門性について学びます」。「二言語共有説」「ダブル・リミテッドの状態」「母語」「継承語」「複数の言語の学び手」「生活言語」「学習言語」「前偏見」などです。

協議では、複数の言語の学び手である子どもたちの言語、アイデンティティを大切にするために、園でできることと、地域にゆだねることなどを考えていきましょう。

基礎理論研修のその先に

それぞれの保育者の自分の今後の研修計画を考える機会、また園全体の研修に見通しを考える機会にしてください。

園内研修進行シート（ファシリテーター用）

A ファシリテーションのヒント（問いかけ例）	B 話し合った内容・ファシリテーターの感想
<p>1 なぜ多文化共生保育が必要なのか</p> <p>Q 1 1-1 や1-2 のデータやデータの説明を聞いて、どんなことを感じましたか。自分が普段感じていることと比べてどうでしたか。自由に話し合ってみましょう。</p> <p>Q 2 現在受け入れている子どもたちの背景にある多様性について、把握できていることはなんでしょう。入園前に知っていることと、入園後でもよいことを話し合ってみましょう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保育者の全体傾向についてどう思いましたか？ ・1-3を見ながら、園にいる外国籍幼児の背景について確認してみましょう。 ・これらの要素から考えて、どのようなケースが考えられるか考えてみましょう。 ・1-4の目次を見て、内容を想像できる項目はありますか？確認してみたい項目はどれですか？ 	
<p>2 外国人幼児等を受け入れるとは</p> <p>Q 3 園での「当たり前」を捉え直してみよう（2-1）。具体的な内容について、なぜそのように園では取り組んでいるのか理由を考えてみましょう。その理由について保護者にどのように説明していますか。「当たり前」と捉えない保護者は、どうしてそのように思うのか、保護者の立場から考えてみましょう。</p> <p>Q 4 外国人幼児等を受け入れることは、幼児教育の基本を見直すことでもあります（2-2）。ここでは「環境を通しての教育」について見直します。言語・文化的視点も加えた、文字への興味を育む環境とはどのようなものだと考えますか？保育室だけではなく園全体の環境について考えてみましょう。</p>	
<p>○具体的な事柄について、なぜそのようにしているのか、理由を考え言葉で説明してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当に持って来ないように保護者に伝えているものはありますか？（汁もの、海苔巻きなど） ・それはなぜですか？どのように説明していますか？ ・持たせたいという保護者は、なぜそう思うのだと思いますか？ 保護者の立場から考えてみましょう。 <p>○具体的な環境構成を考えてみましょう。実際に環境を見直してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの名前は、どのように表記しますか？ ・どのような絵本を、どこに、どのように置きますか？ ・園内の文字表記は、どのようにしますか？ ・年齢によって文字環境は、どのように異なりますか？ など 	
<p>3 言葉を獲得するとは</p> <p>Q 5 あなたにとって「言葉」とは何ですか？ 言葉の意義について、考えてみましょう。</p> <p>Q 6 子どもたちの言葉を育むために、日常的に心掛けていることは何ですか？ 普段の保育を振り返ってみましょう。</p> <p>Q 7 2-2～4 までの説明を聞いて、どのようなことを感じましたか。自分が普段感じていることと比べてどうでしたか。自由に話し合ってみましょう。</p>	

○「言葉」をどのように捉えているのか、自分の考えを自由に語り合い考えを共有することで、言葉の意義を多角的に捉える機会にしましょう。

- ・「私にとって「言葉」とは〇〇である」の「〇〇」に自由に言葉を入れて、あなたにとって言葉とは何かを表現してみてください。
- ・どうして、そのように思うのですか？ そう思うようになった具体的なきっかけはありますか？
- ・子どもたちが言葉を獲得するとは、どういうことだと思いますか？

○言葉を育むために心掛けていることを振り返り、共有することで、援助の幅を広げましょう。

- ・普段、子どもたちの言葉を育むために、どのようなことを心掛けていますか？
- ・他の保育者の意見を聞いて、自分も取り入れてみたいと思ったことがありますか？

○子どもたちが言葉を獲得する意義について、研修で学んだことを整理しておきましょう。

- ・この研修を受けて、どのように感じましたか？ 普段自分が感じていることと比べて、どうでしたか？
- ・明日の保育に活かせる内容はどれでしたか？ それをどのように活かしていきたいですか？

など

4 多文化環境で育つ子どもたち一園と家庭・地域で言葉を育むために一

Q8 4-9の専門性のトライアングルと、この基礎理論研修の各セクションの内容のどれが関連するか考えてみましょう。

Q9 通常の保育と複言語環境で育つ子どもの保育で、どんなことが異なるでしょうか。共通する配慮事項にはどのようなものがあるでしょうか。

Q10 子どもたちの言葉や行動の中で、「前偏見」が表れていると思われる事例を思い出し、出し合ってみましょう。自分の子どもの時の経験でも構いません。

○たくさんの専門用語、概念が出てくるので、一緒に確認する機会を持ちましょう。

○自分の子どもが、日本語を話せなくなって育児をしている状況を想像してみましょう。

- ・小学校高学年ではどんなことがおきるでしょうか？ 中学生では？ 高校生では？
- ・担当しているすべての幼児の言葉の育ちについて考えてみましょう。

○言葉の育ちを把握することがなぜ大切なのか、テキストを一緒に見ながら考えてみてください。

など

基礎理論研修のその先に

Q11 この基礎理論研修全体で印象に残ったことを話し合ってみましょう。

Q12 四つのテーマ別研修のトピックを見て、自分たちのクラス、園ではどの課題を先に学ぶ必要があると思うか、計画を立ててみましょう。

○すぐに取り組めること、園としてやれること、改善していきたいこと等を話し合ってみましょう。

- ・自分
- ・園全体での取り組むこと
- ・その他

○テーマ別研修の内容にこだわらず、園の状況に合わせて自由に出し合ってみましょう。

○今、外国人幼児等が園にいない場合には、初めて受け入れをする際を想定して話し合ってみましょう。様々な人が出会い共に生活していく社会の担い手になっていく子どもたちを育てるという視点をもつようにするとよいでしょう。